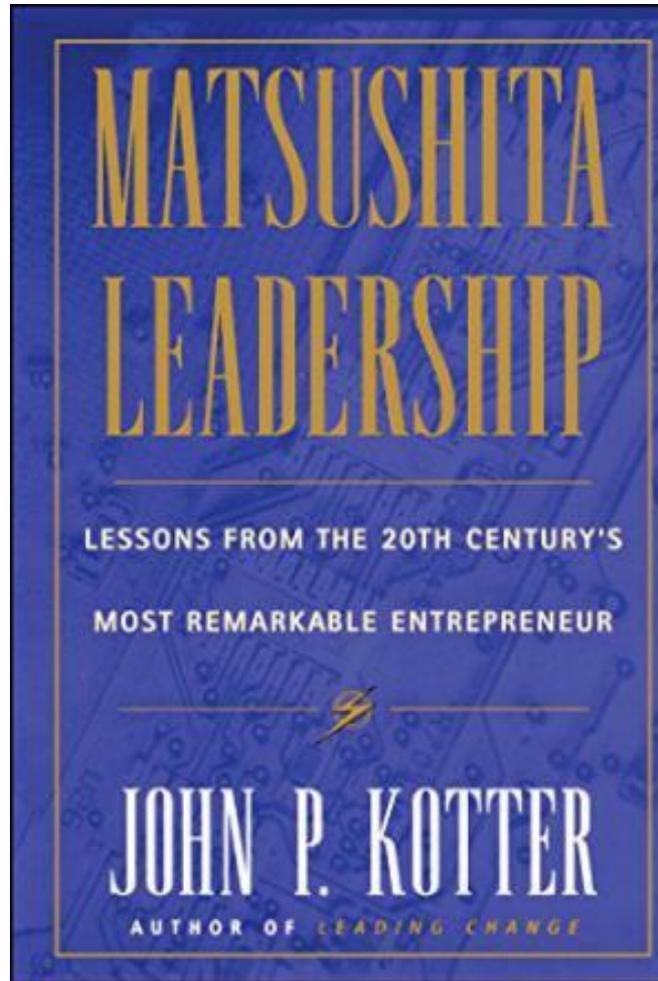


”Matsushita Leadership” に学ぶ ～HBS Kotter 先生をサポートして～



2025/6/2

2025年6月

圓越 淨

Matsushita Leadershipの骨子

- ・日本の社会背景、アメリカ社会・企業の動静を織り込みながら、年代順に創業者個人の人生を自伝風に纏めたもの(先生としては初めての試み)
 - ・但し、単なる自伝ではなく、次から次へと起こる悲劇を乗り越え、物事を前向きに捉え、如何に真のリーダーへと自己成長を遂げていったのか、に焦点を当てて書かれている
 - ・具体的には、丁稚として出発し、企業家、ビジネスリーダー、大企業の創設者、思想家・教育者への成長の過程を通じて、学ぶべき21世紀への教訓を分かりやすく教示した構成
 - ・著者は、出来るだけ客観的に事実を記述しつつ、20世紀における最も優れた企業家として描き出している。
- * 青年期を通じて、幸之助は凡庸な少年だった。20代初めの頃は、神経質で病弱な青年だった。ところが30代に入ると、トム・ピーターズなどが1970年代後半に強調したようなビジネス慣習(business practices)をすでに考え出していた。40代になると、先見性のあるリーダー、いわゆる「ビジョナリー・リーダー」になっていた。

松下幸之助の21世紀への遺訓

- ・変化する環境にあっては、生涯にわたって学び続ける姿勢 (lifelong learning) が、知能指数や家庭環境やカリスマ性、学歴よりも、偉大な成功や抜群の業績につながる。その姿勢は、謙虚さ、素直な心、リスクに挑む意志、人の意見を傾聴する能力、そして誠実な自省と深く結びついている。
- ・逆境 (Hardships) は職業や人生を打ちのめすばかりではない。それなりの条件が整えば、苦難の時期は大きな理想と絶えざる成長を育み、偉大な業績達成に結びつくことがある。
- ・彼は繰り返し人々に説いた。謙虚で素直な心があれば、人はどんな経験からも、どんな年齢でも学べると。人道的な大きな理想を抱けば、成功も失敗も克服し、そのどちらからも学び、成長し続けることができる。

(Prof. Kotter)